

## 6. 研究課題評価

### [ 研究課題評価委員会 ]

開催日時 平成22年8月23日(月) 13:30～16:30  
 場所 衛生環境研究センター大会議室  
 出席者 評価委員8名(表1)、オブザーバー5名(本庁関係課)  
 評価対象課題 19題(事前評価:7題、中間評価:9題、事後評価:3題)

#### 【事前評価対象課題】

- ① 化学物質対策調査研究事業  
 ー白色腐朽菌を用いたダイオキシン類低減化に関する研究(実証化試験)ー
- ② 化学物質対策調査研究事業  
 ー土壌試料等のダイオキシン類迅速分析法に関する研究ー
- ③ 化学物質対策調査研究事業  
 ー福井県における有機フッ素化合物の実態解明に関する調査研究ー
- ④ 有用植物等を用いた湖沼水質浄化に関する研究  
 ー三方湖周辺における流入汚濁負荷の低減ー
- ⑤ 安定化の促進と安全な跡地利用のための最終処分場の分析評価と技術開発
- ⑥ 食中毒予防のための過去事例の解析とその有効活用
- ⑦ 効果的な健康長寿推進のための地域診断支援システムの構築とその活用に関する研究  
 ー地域の特性に応じた生活習慣病対策を支援するー

#### 【中間評価対象課題】

- ① 地下水汚染発見後20年経過時点における汚染状況等の総合的検証に関する研究
- ② ヨシ群落を利用した湖沼の水質改善とヨシ等の有効利用技術(バイオマスエタノール等)に関する研究
- ③ 化学物質対策調査研究事業  
 ーダイオキシン類等有機ハロゲン化合物の最適分析法の開発および環境挙動等の解明に関する研究ー
- ④ 化学物質対策調査研究事業  
 ー微生物分解による汚泥・土壌のダイオキシン類低減化に関する研究ー
- ⑤ 管理型最終処分場の安定化に関する研究
- ⑥ 県内に流行するウイルス性胃腸炎感染症の解明研究  
 ーより効率的なウイルス検出法(マルチプレックスPCR法)の導入ー
- ⑦ ペット動物における病原大腸菌等の保有に関する研究
- ⑧ 食肉からの多剤耐性大腸菌と食中毒菌の分離、およびヒト由来株との関連性
- ⑨ 健康長寿延伸に向けた福井県民の心の健康づくりの研究  
 ー「笑い」を取り入れたストレス対処能力の向上をめざすー

#### 【事後評価対象課題】

- ① 夜叉ヶ池における水質の季節変動に関する研究
- ② 県内産水産物中の残留農薬に関する研究(分析方法の確定)
- ③ 健康づくり県民参加型情報システムの構築に関する研究  
 ー行政が提供可能なホームページコンテンツの提案ー

### [ 評価基準 ]

事前評価	中間評価	事後評価・追跡評価
A: 優れている	A: 優れている	A: 優れている
B: 良い	B: 良い	B: 良い
C: 改善の必要がある	C: 改善の必要がある	C: 当初の目的未達成の部分がある
D: 不適切である	D: 中止が妥当である	D: 不適切である

### [ 評価結果 ]

#### (1) 結果概要

19題中13題については全評価委員の判定が総合評価AまたはBであった。他の6題については多数の委員が総合評価AまたはBと判定したものの、一部の委員が総合評価CまたはDと判定した。

CまたはDの判定があった課題については、後日、当センターから対応策を提示し、了承が得られた。

#### (2) 詳細結果

当センターのホームページ(下記アドレス)に掲載。

<http://www.erc.pref.fukui.jp/center/news/2010/hyouka/H22result.pdf>

表1 衛生環境研究センター研究課題評価・機関評価委員会 (任期 H22.4.1～H24.3.31)  
(平成23年3月31日現在)

委員名	役職
糸川 嘉則	仁愛大学人間生活学部教授 (委員長)
木村 吉延	福井大学名誉教授
日下 幸則	福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学領域教授
広瀬 真紀	福井県医師会理事
中田 隆二	福井大学教育地域科学部教授
廣石 伸互	福井県立大学海洋生物資源学部教授
木村 栄子	敦賀商工会議所女性経営者の会顧問
白崎 義夫	福井健康福祉センター所長

## 7. 疫学倫理審査

### [ 疫学倫理審査委員会 ]

審査依頼 平成23年3月8日(火)  
 審査結果の報告 平成23年3月24日(木)  
 審査委員 7名(表2)

### [ 審査内容 ]

疫学研究課題について、個人の尊厳および人権の保護、個人情報の保護その他の倫理的観点ならびに科学的観点から審査を行う。

### [ 審査を受けた研究課題 ]

研究課題	重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイランス・病態解明及び制御に関する研究 (国立感染症研究所との共同研究)
研究期間	H23～24
研究目的・内容	呼吸器系ウイルスの多くは気管支炎や肺炎などの重症感染症を引き起こすが、重症呼吸器ウイルス感染症の実態及び病態はよくわかっていない。そこで、本研究では重症呼吸器ウイルス感染症における包括的なウイルスサーベイランスを行い、呼吸器系ウイルスと重症呼吸器感染症の因果関係を明らかにすることにより、公衆衛生の向上を図る。
倫理的配慮事項	○個人情報の保護の方法 検体および対象者の基本情報は検体を採取した医療機関で番号制とし、当センターには氏名、詳しい住所、生年月日などの個人を特定できる情報は送付しない。(当センターとしては個人との連結は不可能な形となる。) ○インフォームド・コンセントのための手続き 検体を採取する医師が研究の目的、内容およびこれに伴う個人情報の保護についての説明を行い、文書で同意を得る。

### [ 審査結果 ] 承認

表2 衛生環境研究センター・健康福祉センター疫学倫理審査委員会 (任期 H21.4.1～H23.3.31)  
(平成23年3月31日現在)

委員名	役職
糸川 嘉則	仁愛大学人間生活学部教授 (委員長)
日下 幸則	福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学領域教授 (副委員長)
高鳥 眞理子	福井県立大学看護福祉学部教授
広瀬 真紀	福井県医師会理事
石丸 美千代	福井県看護協会会長
前波 實	福井県弁護士会
清川 忠	福井県社会福祉協議会会長